

令和6年度（横須賀南高等学校）不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 課題・目標別実施結果

課題	目標	実施結果と目標の達成状況
法令の遵守意識の向上	常に教育公務員としての高い倫理観念を持った言動を行い、生徒・保護者及び県民の信頼に応えられるよう不祥事の根絶を目指す。	<p>① 公務外非行に係る不祥事事案を含め法令遵守の意識向上のため、不祥事防止研修会や朝の打合せ等で資料やニュースをもとに折に触れて全職員で研修を行った。</p> <p>② 年間2回の校長による不祥事防止の内容を含む面談と、気にかかることがあればすぐに管理職による声掛けを行い不祥事の未然防止に努めた。</p> <p>③ 服務の早期入力とTeamsでの確認を徹底し、公務旅行については必要があれば内容の聞き取り確認を行い、適切な指導を徹底した。</p> <p>④ 同僚性により気に掛かることはお互いに注意し合い、管理職への報告もできる環境づくりを行った。</p>
職場のハラスメント（パワハラ・セクハラ・マタハラ等）の防止	他者への人権意識を常に持つことにより、ハラスメント行為の徹底防止を図る。	<p>① 人権研修会や不祥事防止研修会においてできるだけ具体的な事例を挙げ、常に人権に対する意識の向上を図った。</p> <p>② ハラスメントの情報を迅速に管理職へ報告・相談する体制が整っている。</p> <p>③ 互いに「気になる」言動について注意し合える日常的な注意喚起を行動計画とした。</p>
児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	生徒一人ひとりがわいせつ・セクハラ行為の未然防止について当事者意識をもって取り組み、児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の徹底防止を図る。	<p>① 不祥事防止の最重要課題として、セクハラ事例のニュースや資料を使い、折に触れて不祥事防止会議を行い徹底防止を図った。</p> <p>② 生徒対応は複数で行い、単独で行う場合は周囲の目に触れる場所で行なうことが徹底されている。</p> <p>③ 準備室の適正使用について繰り返し周知徹底を行い管理職による定期的な点検を行い、適正な対応が行われている。</p> <p>④ 県によるわいせつ・セクハラアンケートの他に、学校独自のアンケートを年2回実施してわいせつ・セクハラ行為の徹底防止を図っている。</p> <p>⑤ 同僚の「気にかかる」言動はお互いに注意しあい、セクハラの未然防止に努めた。</p> <p>⑥ 校長が教職員全員に対し、SNSの適正使用を含む不祥事防止について個人面談を行った。</p>
体罰、不適切な指導の防止	生徒の人権に対する配慮を心掛け適切な生徒指導に努め、体罰・不適切指導を防止する。	<p>① 生徒を指導する際は複数での対応と、生徒の人権を尊重した言動をとることを徹底している。</p> <p>② 県による体罰アンケートの他に、学校独自のアンケートを年2回実施して体罰行為の徹底防止を図っている。</p> <p>③ 実際に起こった事例をもとに、どうしたら防止できたかを検討しながら研修会を行った。</p>

入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	マニュアルを遵守し関係書類の作成や取扱、確認に係る体制と手順を明確にして、事故を防止する。	<p>① 二つの学科の異なる入学者選抜業務を同時にミスなく行うため、既存のマニュアルの見直しを行った上で、検査方法のシミュレーションを入念に行い、円滑な業務遂行に努めたが、点検の不徹底によるミスも起きました。今後は一人ひとりが確実に点検を行うよう徹底したい。</p> <p>② 生徒の指定校出願に当たっては、マニュアルに従って複数の教員と管理職により複数回点検を行い事故の徹底防止を図った。</p> <p>③ 出願書類の発行について、教員の担当と事務の連携を密にして、マニュアルに従ったミスのない出願業務の徹底を図った。</p>
個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	個人情報の管理と、情報セキュリティ対策を徹底して、紛失・遗漏等を防止する。	<p>① 個人情報の持ち出しは行わないことを原則として、やむを得ない場合は管理職による確認許可を徹底した。</p> <p>② 県の原則に沿った本校の「個人情報の対策重要度分布票」に従って、重要書類の保管・廃棄を行った。</p> <p>③ 個人情報が含まれた書類を外部へ交付する際には、複数による点検・確認と管理職による点検を徹底して行い誤配付の防止を徹底した。</p> <p>④ 収受した個人情報を含む文書は、手渡しを原則として、無理な場合は鍵のかかる保管場所に保管するなど書類の紛失防止に努めた。</p>
交通事故防止、酒酔い、酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通法規を守り、交通事故の発生を未然に防止し、スピード違反、酒酔い、酒気帯び運転を根絶する	<p>① 啓発資料を利用して研修会を開催し、交通事故に対する意識の啓発を行い交通事故の徹底防止を図った。</p> <p>② 県職員による交通事故のニュースがあればその都度事故防止講話を行い、自分事として注意喚起を行った。</p>
業務執行体制の確保等	働き方改革の具体的実施と風通しの良い職場環境づくりを行い、日常的に相互に情報共有を図り、円滑で確実な業務遂行を目指す。	<p>① 共有フォルダを整理して情報の共有化を図り、迅速で円滑な業務遂行に繋げた。</p> <p>② 「ほう・れん・そう」の徹底を機会がある度に呼びかけ、教員間や管理職となんでも相談できる体制を構築できた。</p> <p>③ 管理職による声掛けを頻繁に行い、19時過ぎにはほぼ全職員が退勤する状況ができた。</p>
財務事務等の適正執行	私費会計基準を遵守し、迅速で適正な処理を行い、会計処理業務の事故不祥事の防止に努める。	<p>① 「私費会計事務処理の手引」を利用して各会計担当者対象に研修を行い、円滑でミスのない会計処理の徹底を図った。</p> <p>② 会計担当者と管理職による点検を行い、公費と私費の区別を徹底した。</p> <p>③ 各種会計簿等を適正に作成し保管に努め、保護者への通知、報告も迅速に行った。</p> <p>④ 各会計の出納簿を管理職が月ごとに確認し、適正な会計処理を図った。</p>

○ 令和6年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和7年度に取り組むべき課題 (学校長意見)

今年度も不祥事防止プログラムに従った取組を着実に継続し、全教職員が不祥事防止を意識しながら教育活動を進めることができた。また、日ごろから教育委員会通知、啓発資料による不祥事防止研修の他に、新聞記事の不祥事事例をタイムリーに職員室に掲示するとともに、事故事例を題材とした研修や講話を行なってきた。さらに不祥事防止会議を中心となり、校内の業務の進行状況にあわせた事故防止啓発活動により、教職員としての自覚と責任を再認識させている。

しかしながら、令和6年度には点検・確認を怠ったためのミスが起きており、校長として大変遺憾なことであり、不祥事防止へ一層の意識啓発及び具体的な取組の実施に努める所存である。

具体的には、次のような取組を令和7年度も継続して行う。

- ・視聴覚資料を利用して自分事として考えられる効果的な事故防止研修を計画的に実施する。
- ・外部講師による不祥事防止研修を実施する。
- ・朝の職員打合せ時に適宜、最新情報を周知して日常的に啓発と注意喚起を行う。
- ・校長は職員と複数回の面談機会を設定し、職員への注意喚起に努めるとともに、職員の言動に気になることや不審な点があればすぐに声掛けを行い、状況の把握に努める。
- ・点検・確認は点検表を作成して計画的に行う。